

平成 31 年度
事務事業評価シート
(社会教育・スポーツ課)

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

野辺地町教育委員会

目 次

1 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	
（ 1 ） のへじ元気講座	38
（ 2 ） ハッチョウトンボ観察会	39
（ 3 ） 町文化賞、教育委員会文化賞の表彰	40
（ 4 ） 馬門公民館教養講座	41
2 次世代を担う青少年の育成	
（ 1 ） 子ども会事業	42
（ 2 ） ふるさと探偵団	43
（ 3 ） ふれあい通学合宿	44
（ 4 ） 在学青年ボランティア会	45
3 地域を支える人材の育成	
（ 1 ） 生涯学習大学	46
4 学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	
（ 1 ） 家庭教育推進事業	47
（ 2 ） いのちのお話出前講座	48
5 社会教育推進のための基盤整備	
（ 1 ） 社会教育団体の支援	49
（ 2 ） 生涯学習カレンダーの発行（新規）	50
6 生涯スポーツの普及・振興	
（ 1 ） 町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰	51
（ 2 ） 健康ウォーターマラソンスタンブラリーの開催	52
（ 3 ） 青森県民スポーツレクリエーション祭参加	53
（ 4 ） 学校体育施設の開放促進	54
（ 5 ） 地域総合型スポーツクラブの検討	55
（ 6 ） 水泳教室開催	56
7 青少年スポーツの振興	
（ 1 ） スポーツ少年団への支援と育成	57
（ 2 ） 町営球場開設記念兼ライオンズクラブ旗争奪中学校野球大会の支援	58
（ 3 ） 青森県小学生スキー大会の開催	59
8 競技スポーツの推進	
（ 1 ） 青森県民駅伝競走大会選手強化支援	60
（ 2 ） 町体育協会活動支援	61
（ 3 ） 競技スポーツ強化支援事業	62
9 スポーツ情報の充実	
（ 1 ） スポーツ史発行に向けて記録等の情報収集及び保存	63
10 社会体育施設・設備の整備・運営	
（ 1 ） 体育施設の総合的な修理修繕と運営	64

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	のへじ元気講座	担当者名	清水目 唯那

事業の目的・内容	参加者の自主的な学習意欲を促進し、相互交流を通して地域活性化を図り町を「元気」にすることと、参加者一人ひとりが生きがいを見つけ「元気」な生活を送るための心と体の健康づくりを目的に実施する。		
事業の対象	成人		
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金額	受講者負担 (98) 千円	22 千円
			令和 2 年度予算
			50 千円

事業の実績・成果等 (数値)	受講料 1,000円 受講者45名、延べ受講者174名 ①5月30日(木) 講話「～教育の町野辺地～」講師：元野辺地町教育委員会 教育長 河島 靖岳 氏 ②6月24日(月) 講話「青い目の人形」歓迎会 講師：弘前学院大学 文学部 准教授 生島 美和 氏 ③8月8日(木) 講話 おいしく減塩！青森県の「だし活」！！ 講師：青森県 農林水産部 柿崎 馨代 氏 ④9月24日(火) 町外研修 南部町「なかよしファーム」ぶどう狩り体験・「八食センター」 ⑤10月18日(金) 運動教室「チャレンジ・ザ・ゲーム」講師：青森県レクリエーション協会 三ツ谷 正和 氏 特別講座 11月13日(水) 「生活排水対策講習会」講師：青森県地球温暖化防止活動推進員 土岐 泰 氏 ⑥11月14日(木) 音楽鑑賞会「町内小・中学校音楽交歓会」 ⑦12月18日(水) ハーバリウム体験 講師：ローズミルフィ青森 横内 恵美子 氏		
-------------------	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・受講者が減少傾向にあるため、新規受講者や男性も気軽に参加できるよう促していく必要がある。 ・今後も受講生からの意見を参考に、講座内容を工夫し、幅広く学習・活動できる場を提供していきたい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

- ・男性が参加できるような内容を取り入れてほしい。
- ・受講方法も単発で受講できるような仕組みを考えてはどうか。

評価委員意見(平成31年度)

- ・参加人数を増やすという課題は、今後、あまり重要ではなくなってくるだろう。1つ1つの講座が有意義で満足できるものか参加者の感想が大事である。
- ・平日の時間帯のみでは参加出来る人が限られるので工夫が欲しい。
- ・今後も男性の参加が出来る内容を徐々に取り入れて行くのを望んでいます。
- ・男性1人だけの参加とこのことなので、男性限定などターゲットを絞って募集してみるのも良いのではないかな。

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ハッチョウトンボ観察会	担当者名	清水目 唯那

事業の目的・内容	まかど温泉スキー場あったかハウス「まかどの森」前に絶滅が危惧されているハッチョウトンボの生息が確認されたことから、生息域を保護しつつ、その魅力を伝える。平成28年度から、町内小学校3年生を対象に総合的な学習として観察会を実施している。		
事業の対象	町内小学校3年生		
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金額	10 千円	20 千円
			令和 2 年度予算
			5 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・ハッチョウトンボ生息域内への侵入を規制（6月～10月）し、トンボが生息できる環境づくり・保全を行っている。 ・観察会は、文化財保護審議委員の高沢岩男氏を講師に招き、前年度荒天により中止となった新4年生も含め実施した。 町内4年生及び馬門小学校3年生 実施日：令和元年7月13日（月） 町内3年生（野辺地小学校／若葉小学校） 実施日：令和元年7月17日（水）		
-------------------	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	パンフレット等を作成し、窓口や各施設に配置するなどし、活動の情報共有・発信することが必要。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・一般参加者は、教員「ふるさと研修」時に一緒にするなどして、小学生と切り離してはどうか。
--

評価委員意見(平成31年度)

・ただ観察するのではなく、講師の人を付けて、説明する時間を設けているのはとても良いことだと思う。 ・このような観察会があることを初めて知りました。もっと紹介してもいいのでは。 ・絶滅危惧種でとても貴重なトンボなので、保護しながらマスコミなどに宣伝して行くのも良いと思います。 ・町民でも知らない人が多いので、子供だけでなく、対象を広げてみてはどうか。また、町のパンフレットに載せてもよいのでは。
--

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町文化賞、教育委員会文化賞の表彰	担当者名	金ヶ崎 春明

事業の目的・内容	文化活動において優れた業績をあげ、町の文化振興に寄与した方を表彰する。		
事業の対象	町民一般		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	53 千円	63 千円
			令和 2 年度予算
			150 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・ 1 2 月 1 6 日 小中学校、関係団体に推薦依頼		
	・ 1 月 2 9 日 表彰審査会、受賞通知（表彰者）		
	・ 2 月 2 5 日 授与式 1 6 時～ 中央公民館ホール		
	○町文化賞		
	①文化功労賞（個人） 1 名	②文化奨励賞（個人） 5 名	
	○教育委員会文化賞		
	①文化優秀賞（個人） 6 9 名 （団体） 1 団体		

事業の 評価 (自己 評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	・受賞対象となる個人・団体部門における申請書の提出を受けるが、その作品発表の時期により申請提出期限日を経過することがある。 (今後とも柔軟な対応が必要。)		
事業の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・文化賞とスポーツ賞を合同で行う取り組みは良い。

評価委員意見(平成31年度)

・表彰するのは、次への励みになるので、今後も続けてほしい。

・今後も継続してほしい。

・モチベーションをあげるためにも、ぜひ継続してほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	馬門公民館教養講座	担当者名	清水目 唯那

事業の目的・内容	趣味と教養を高めるとともに、仲間づくりのため開催する。 開講時期 6月～10月		
事業の対象	成人		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	受講者負担 (26) 千円	45 千円
			令和 2 年度予算 45 千円

事業の実績・成果等 (数値)	・講座内容 (人数) ダンス (7人)、着付け (11人)、手芸 (9名) ・受講料 1講座1, 500円 ・講師謝金 1人15, 000円		
-------------------	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・参加者の意欲は高く、講座期間外にも自主的に活動が行われている。 ・学びの成果を発表する機会を数多く設けられるよう努めていく必要がある。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・講座継続のためにも、指導者育成に努めてほしい。

評価委員意見(平成31年度)

・受講料をこれ以上、上げないよう、予算をしっかりと確保していただきたい。

・参加者が意欲を持って参加している事が良いと思う。

・公民館で発表の場があるのは結果が見えて良い。昨年からも課題である後継者(指導者)育成に更に努めてほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	子ども会事業	担当者名	清水 目 唯那

事業の目的・内容	子どもたちの健やかな成長と青少年の育成を目的として実施。 ・子ども会の加入状況 幼児15名、小学生137名、中学生9名、高校生1名 計 162名		
事業の対象	子ども会 会員		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	194 千円	227 千円
			令和 2 年度予算
			270 千円

事業の実績・成果等（数値）	・子ども会わくわくキャンプ 令和元年8月3日～4日 場所：柴崎地区健康レクリエーション施設 子ども：25名 大人：33名 計：58名 ・子ども会レクリエーション 令和元年11月17日 場所：野辺地町青少年体育センター 子ども：39名 大人：38名 計：77名		
---------------	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
自己評価	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
	自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	・H30年度まで4年連続で同様の内容（サマー体験）が続いたため、活動内容を見直し、5年ぶりに1泊2日でキャンプを開催した。 ・レクリエーションについても、参加者が多く、事前準備を含め多くの協力もあり円滑な事業の実施ができた。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・高校生、中学生がリーダーとなって、小学生の面倒を見るような伝統を作っていければ、小中高連携にもつながる。 ・担当されている方々の努力が見えます。手伝いボランティアなど、中高、社会人、高齢者までつなげればなお良い。 ・子ども会の事業や活動内容がわかるニュース（情報）が知りたい。子ども会新聞とかあれば良いと思う。
--

評価委員意見(平成31年度)

・柴崎地区レクリエーション施設の活用は大変良いことと思う。子ども会への入会が前提の行事であるなら、春先の広報活動がより重要と思う。 ・子ども会に協力している方々の努力が伺えます。今後も子供たちの心の成長のために続けて行ってほしいです。 ・子ども会内部では活発に活動しているが、町民にその活動が見えてない現実を踏まえ、町の広報、HPでも積極的にアピール宣伝してはどうか。
--

事務事業評価シート

施 策 名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふるさと探偵団	担当者名	清水 目 唯那

事業の目的・内容	町の良さを知って郷土愛を深め、誇りを持たせるとともに、子ども同士のコミュニケーション能力を育成する事業を実施。		
事業の対象	小学3年～中学生		
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金額	0 千円	2 千円

事業の実績・成果等 (数値)	郷土史学習と郷土への理解を深めることによる郷土愛醸成を目的に、ガイドと一緒に北前船に関する「モノ・コト」を巡り、野辺地町の歴史や文化について理解を深める学習を行った。		
	日 時：令和元年9月14日（土）9：00～14：30		
	場 所：公民館及び町内（歴史民俗資料館、常夜燈公園、八幡宮、行在所）		
	講 師：歴史ガイド 野辺地町歴史を語る会 鈴木会長、畠山氏		
	調理ガイド 松浦氏（旧松浦食堂）		
	ガイド補助 歴史民俗資料館職員		
	参加者：若葉小2名		

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☐ おおむねできている	☒ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☒ 達成できてない
自己評価	D	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	・この事業のねらいは、郷土愛を育む、コミュニケーション能力を養うであるが、年々参加者の減少が続き、参加者の対象範囲を広くしたもの31年度は2名となった。 ・継続が困難なため廃止とする。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☒ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		C	C	C	D	D	C

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

- ・小中高校生を集めたいのであれば、子ども会事業で行うのはどうか。
- ・ふるさとを大切に思う心が育つことは続けていってほしいです。
- ・楽しいワクワクするようなアピールが子ども視点で必要だと思う。

評価委員意見(平成31年度)

- ・ものすごくもったいないと思う。
- ・参加者が少なく残念ですが、アイデアによって興味が湧くと思います。

事務事業評価シート

施 策 名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふれあい通学合宿	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	2泊3日で宿泊して通学をし、助け合って活動することで、身の回りのことなどの衣・食・住を自分でできるようにし、自立心の養成や団体生活を通しての交流を図ることを目的に実施する。		
事業の対象	小学生、中学生		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	139 千円	129 千円
			令和 2 年度予算
			164 千円

事業の実績・成果等（数値）	令和元年9月19日（木）～21日（土）野辺地町中央公民館 参加料 2,000円 1日目…開会式、買い物、夕食調理、入浴、宿題・自主学習 2日目…朝食調理、夕食調理、竹灯籠づくり、入浴 3日目…朝食調理、館内清掃、トートバッグづくり（縄文くらら）、 流しそうめん、感想文作成、閉会式 参加人数：20人 （野小13人、若小1人、馬小1人、野中5人） （男女内訳 男子 3人 女子17人）		
---------------	---	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価		A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題		・中学生がリピーターとして参加し、小学生のお兄さんお姉さんの存在として良い刺激を与えている。 ・実施日については、各校と毎年調整して実施する必要がある。 ・男子の参加人数が減少傾向にあるため、実施内容などの検討が必要。	
事業の方向性		☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・衣食住の自主的活動なら、森林総合センターでの実施が最適なのは。移動手段はバス移動で。

評価委員意見(平成31年度)

・9月実施であったが、宿泊するのであれば、季節は夏の方が、健康管理においても指導者にとっては運営しやすいのではないだろうか。
・男女問わずたくさん参加出来るようにもう少し工夫が必要。
・社会に出て、自立のための練習でもあるので続けて行ってほしいです。
・学校、学年が違う子供たちが共同生活することにより、普段体験できないことをできる貴重な時間だと思うので、中身は変えながらもよいので継続していただきたい。

事務事業評価シート

施 策 名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	在学青年ボランティア会	担当者名	清水 目 唯那

事業の目的・内容	高校生（野辺地高校・野辺地西高校）を対象としてボランティア意識を醸成することを目的として実施。 令和元年9月～令和2年2月 収入 67,713円 支出 24,939円		
事業の対象	高校生		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	25 千円	25 千円
			令和 2 年度予算
			15 千円

事業の実績・成果等（数値）	①9月15日（土）	「まちなかにぎわい商工祭」 そば打ち体験ブースの運営補助 野辺地高校：2名 野辺地西高校：2名
	②10月19日（土） ～20日（日）	「馬門公民館文化祭」 着付けの帯むすびの実演モデル及び配膳手伝い 野辺地高校：6名 野辺地西高校：2名
	③2月8日（土）	「一人暮らし高齢者宅訪問事業」 除雪作業と、手作りお菓子の配布 野辺地高校：18名 野辺地西高校：3名

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・参加した高校生からのアンケートを見ると、やりがいをもって事業に取り組んでいると感じれる。 ・今後も高校生の意見を取り入れ、高校生が活躍できる場や内容を検討し、事業を展開していきたい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

・目的は大賛成。ただ、ボランティア活動だけでなく、終了後の交流活動等の楽しいこともなければ、持続も難しいのでは。
--

評価委員意見（平成31年度）

・活動内容をもっと身近で理解してもらえるように、発信してもいいと思う。 ・ボランティアを通して、ますます交流を深めて行く事を希望します。 ・これからの野辺地町を背負う宝としてぜひ活動に期待したい。高校生からアイデアをだしてもらい、高校生だけで運営する企画も考えても良いのでは。
--

事務事業評価シート

施 策 名	地域を支える人材の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	生涯学習大学	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	体系的な高度な学習内容の講座を開設し、町民の生涯学習及び社会参加活動による生きがいの創造を推進するとともに、学生が地域活動のリーダーとして活躍することを目指し実施した。 平成5年度事業開始し、26年目となる。		
事業の対象	成人（年間登録制）		
事業費	年度	平成30年度決算	平成31年度決算
	金額	受講者負担(76) 千円	75 千円
			令和2年度予算 100 千円

事業の実績・成果等（数値）	令和元年7月～12月 18：00～19：30 会場：町立図書館 視聴覚室 受講料 2,000円 受講者数 37名 延べ 139名 ①「大人のための色育講座～色を与えるイメージ～」ワークスペース詩寿華 田村静香氏 ②『野辺地町の忍者』青森大学忍者部顧問 清川繁人氏 ③東北町民大学へ参加『さかなクンのギョッギョッとお魚教室！』さかなクン氏 ④『パフォーミングアーツってどんなもの？』青森県立美術館 舞台芸術企画課長 小笠原雅之氏 ⑤『菌質を改善し、健康寿命を延ばそう！』青森県健康管理士会 石川知王子氏 ⑥「捨てる片づけはしなくてもいい～シニア人生棚卸し～」片づけ・お掃除コンシェル 三上環氏		
---------------	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・新規参加者の増加（8名）や生涯学習の継続がされている。 ・幅広い世代（男性／若年層等）へ学習の場を提供するため、講師選定を工夫していきたい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	A	A	B	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

- ・工夫した講座内容で良いと思う。
- ・著名人を数年に1回でも呼んでほしい。

評価委員意見(平成31年度)

- ・新規参加者がいたので、これからも広報・周知に努めていただきたい。
- ・何歳になっても、学ぶ事への意欲があるのは、良いと思います。

事務事業評価シート

施 策 名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	家庭教育推進事業	担当者名	清水 目 唯那

事業の目的・内容	多くの保護者が集まる保護者会や、参観日等の機会を活用して、家庭教育支援のための学習会を提供する。 開催時期 令和元年7月～令和元年12月 参加者数 約621名（園児・児童含む）		
事業の対象	幼児・児童・生徒とその保護者（町内保育所、幼稚園、小・中学校）		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	30 千円	40 千円
			令和 2 年度予算 65 千円

事業の実績・成果等（数値）	①7月11日（木）馬門小学校「本当にこわいネット・ゲーム依存～心と体を守るためにできること～」佐々木 りえ子 氏 ②7月20日（土）カトリック幼稚園「絵本の読み聞かせ・エプロンシアター・影絵」おはなしサークル虹色の会 ③9月26日（木）わかば保育園「親子でエアロビクス」中村 俊子 氏 ④10月1日（火）野辺地保育園「親子でエアートランポリンを楽しもう！」玉山 貴宏 氏 ⑤12月6日（金）野辺地小学校「運動と健康でじょうぶな体をつくろう」加藤 智子 氏
---------------	---

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・家庭教育を学ぶ機会を絶やさないように、予算や内容の改善、効率化を検討しつつ継続していく必要がある。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中演委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	A	A	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・幼児教育はますます重要になっている。もっと子育てに関する取組みが必要。スマホを預けて静かにさせている親が多すぎる。
--

評価委員意見(平成31年度)

・野小では参観日で行われていたが、この内容だから参加しないと話す親もいる。内容の大切さをもっと考えるべきだと思う。
・家庭の中で子どもは自分を大切にされて、安心を体験し、保護者もこの事業を通して元気をもらっていると思います。
・コツコツと長く続けることで、必ずいつか成果につながると思うので、息の長い事業にしてほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	いのちのお話出前講座	担当者名	清水 目 唯那

事業の目的・内容	町内3小学校合同で4学年とその保護者を対象に、男女の体の違いや妊娠・出産の知識を正しく伝えることで性と心の教育及び親子の絆を深めてもらうための講座を実施。 委託料 38,500円（消費税・交通費含） 協力妊婦謝礼 5,000円（商品券） 消耗品費 34,475円 ※健康づくり課を通して県より補助を受けている（平成28年度～）			
事業の対象	町内4学年児童とその保護者			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	78 千円	78 千円	79 千円

事業の実績・成果等（数値）	対象：町内3小学校4学年とその保護者 人数：94人（児童82人・保護者3人・教員9人） 講師：青森県助産師会「いのちのお話プロジェクトあかり」 会場：若葉小学校 講堂 （会場校は若葉→野辺地→馬門の順に持ち回り） 健康づくり課を通して町内在住妊婦へ、講座内で胎動の心音を聞かせていただく協力を要請している。また、平成28年度より県補助を受け、委託業者への委託料と交通費、協力妊婦への謝礼（町商品券）を計上している。			
---------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・命の軽視が問題となっている今、命の素晴らしさや自他の命のかけがえのなさを実感してもらえるように、保護者から児童への手紙や実際の胎児の心音を聞くことで、命に対する理解を深め、出産時やいのちの大切さを振り返る良い機会となっている。		
事業の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	A	A	A	A	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・町で予算をつけているのは大変良いこと。学校予算では、高額すぎて呼べない。

評価委員意見(平成31年度)

・継続してほしい。

・今後も継続してほしい。

・4年生に一度だけでなく、何度か行ってみてはどうか。

事務事業評価シート

施 策 名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	社会教育団体の支援	担当者名	清水 目 唯那

事業の目的・内容	社会教育における青少年健全育成及び文化活動等を推進するため、団体が行なう事業について、補助する。また、団体事業を支援する。			
事業の対象	社会教育団体			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	427 千円	429 千円	429 千円

事業の実績・成果等 (数値)	団体補助金 ①子ども会育成連絡協議会 100,000円 ②文化振興協議会 134,000円 ③連合PTA 120,000円 ④在学青年ボランティア会 15,000円 ⑤文化少年団 60,000円			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	・各団体活動者の無理のない世代交代が必要と思われる。 ・各団体の活動を維持、発展させるために現状の補助は今後も必要である。		
事業の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	A	B	A	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・現在の緊急メールの会社はあまり良くない。もう少し、使い勝手の良いメール会社を希望する。

評価委員意見(平成31年度)

・今後も継続してほしい。

・毎年の補助のおかげで各活動がスムーズに行えているのだと思うので、これからもお願いしたい。

事務事業評価シート

施 策 名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	生涯学習カレンダーの発行（新規）	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	学校行事やスポーツ団体が主催する行事、町が主催する行事等を掲載し、町民への情報提供を行う。		
事業の対象	町民		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	千 円	0 千 円
			令和 2 年度予算 182 千 円

事業の実績・成果等（数値）	平成30年度まで作成していた2つのカレンダー（コミュニティカレンダー、スポーツカレンダー）の内容を1つにまとめたカレンダーを作成。 5 月 発行 ・町内幼保小中高校へ各 1 部提供 ・町内公共施設へ設置（各10部） （役場・中央公民館・町立体育館・屋内温水プール・勤労青少年ホーム・馬門公民館・図書館・歴史民俗資料館） ・町HPへ掲載		
---------------	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・これまで2つ作成していたカレンダーの内容を1つにまとめたことにより、1つのカレンダーを見ることで町の行事等がより確認しやすくなった。 ・掲載する内容に留意しながら今後も町民への情報提供を行っていきたい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	A	－

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

評価委員意見(平成31年度)

・2つのカレンダーを1つにまとめたことにより、より確認しやすくなった。

・たくさんの方が見ているとは思えない。

・今後も継続してほしい。

・町の行事やイベントが一目で把握することができ大変良い。担当の方の努力が伺える。

事務事業評価シート

施 策 名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰	担当者名	金ヶ崎 春明

事業の目的・内容	スポーツ競技大会において優れた成績をおさめた者を表彰し、野辺地町のスポーツの普及、振興を促進することを目的とする。		
事業の対象	野辺地町表彰規則による（町民他）		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	287 千円	386 千円
			令和 2 年度予算
			427 千円

事業の実績・成果等（数値）	令和2年2月25日（火） 16時～ 中央公民館ホール 県大会以上の大会で優秀な成績をおさめた者、及び町のスポーツ振興に寄与した者を野辺地町スポーツ賞として表彰した。また、郡大会以上の大会で優秀な成績をおさめた者を野辺地町教育委員会スポーツ賞として表彰。 町：スポーツ功労賞 1名 スポーツ指導者賞1名 スポーツ賞（個人）11名（団体）1団体 スポーツ優秀選手賞（個人）14名（団体）11団体 委員会：スポーツ奨励賞（個人）19名（団体）3団体		
---------------	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・平成25年度に表彰規程の見直しを行った結果、選考基準が受賞の明確化につながってスムーズに審査できる。 ・受賞者は増加傾向にあるので、受賞する選手・団体の励みや競技力の向上につなげていきたい。		
事業の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	A	A	A	A	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・文化賞とスポーツ賞を合同で行う取り組みは良い。

評価委員意見(平成31年度)

・表彰は、次への励みにもなる。コロナ対策をしっかりとやりながら、続けていってほしい。

・今後も関わっている方々の励みになると思います。

・表彰してもらうことでやる気アップにつながるので、ぜひ継続していただきたい。

事務事業評価シート

施 策 名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	健康ウォーターマラソンスタンプラリーの開催	担当者名	石田 晃

事業の目的・内容	健康増進及び運動不足を解消し、町民の健康維持の一助となることを目的とする。野辺地町から仙台市までの距離（４００キロ）を完歩することを目指し、自分のペースでプールの中を歩く。配布しているスタンプカードに当日歩いた距離を記入し、スタンプを押して記録する。実施期間終了後に最終結果を掲載した完歩歩証を配布し、上位５位に施設無料券を贈呈する。なお、参加者は施設使用料が４１０円から２１０円になる。		
事業の対象	２０歳以上の町民		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	22 千円	22 千円

事業の実績・成果等（数値）	期 間：令和元年７月１８日（水）～令和２年３月１日（日） 場 所：野辺地町屋内温水プール「サンビレッジのへじ」 参加者数：１２４名 そ の 他：当初は３月８日までの実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策の一環として３月２日より施設を休館としたため、３月１日までの実施となった。
---------------	---

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・ 30代から60代まで幅広い世代がまんべんなく参加している。 ・ 50回以上参加し運動を習慣化している方がいる一方で、様々な事情があると思われるが、数回の参加で終わっている方も少なくないことから、多くの方が継続的にウォーターマラソンに参加できる仕組みが必要。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	B	A	A	B	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・料金が半額になるということで利用しやすいが、期間限定のフリーパスがあれば良い。
--

評価委員意見(平成31年度)

・令和元年度は１２４名もの参加者がいた。健康ブームがしばらく続きそうなので、水泳は取りかかりやすい入口だと思う。
・年間パスポートのような形になると嬉しい。自分で距離を計算するのがやや面倒。
・更なる工夫があればプールの利用者が増加すると思います。

事務事業評価シート

施 策 名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県民スポーツレクリエーション祭参加	担当者名	金ヶ崎 春明

事業の目的・内容	広く県民にスポーツ・レクリエーション活動の場を提供し、県民一人ひとりの活動への参加意欲を喚起するとともに、県民の生涯を通したスポーツ・レクリエーション活動の実践を図り、健康で活力ある生活に資することを目的としている。		
事業の対象	野辺地町の各種スポーツ、レクリエーション団体が参加		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	36 千円	22 千円
			令和 2 年度予算
			36 千円

事業の実績・成果等（数値）	第12回青森県スポーツ・レクリエーション祭への参加 令和元年6月30日（日）7月6日（土）7日（日）主会場：青森市ほか 参加競技（5団体47名参加） ①グラウンド・ゴルフ競技 16名 ②ふれあいボウリング競技 1名 ③マスターズ陸上競技 2名 ④レクリエーションダンス競技 17名 ⑤フォークダンス競技 11名		
---------------	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・生涯スポーツについては、各団体において活動に積極的に参加しており非常に良い方向に進んでいると思われる。 ・この事業目的により、参加者は、楽しんで参加している。 ・参加団体は前年度と比較して2団体、参加人数は28名減少した。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	C	B	B	B	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・参加方法を明確にして、広報等で周知してほしい。

評価委員意見(平成31年度)

・もっと紹介しては。
 ・参加者の意欲があるのは、良い事だと思います。

事務事業評価シート

施 策 名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	学校体育施設の開放促進	担当者名	石田 晃

事業の目的・内容	スポーツ活動の普及・振興を目的として町内小・中学校の体育館、校庭を児童・生徒が使用していない時間に開放する。 年間で使用する団体へは一年毎に申請書を提出してもらうこととしている。		
事業の対象	町民		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	0 千円	0 千円

事業の実績 ・成果等 (数値)	平成３１年度 年間利用	
	利用団体	１９団体
	利用回数	
	若葉小学校	３１９回
	野辺地小学校	４６６回
	馬門小学校	３５回
	野辺地中学校	７４回
	計	８９４回

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・多くの団体が体育館を利用し、活動が行われている。 ・利用マナーについては改善されてきていると感じているが今後も注意を促していきたい。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	B	B	B	A	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・各種スポーツ団体にとっては、体育館の開放は大変助かっている。 ・今後も気持ち良く使えるように、利用団体にマナー順守を再度呼び掛けてほしい。
--

評価委員意見(平成31年度)

・各種スポーツ団体にとっては、体育館の開放がなければ、活動できないので、できる限りの支援はしていきたい。 ・19団体の利用が更に充実してほしい。 ・利用側も適切に使用してくれているようなので、これからもお願いしたい。

事務事業評価シート

施 策 名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	地域総合型スポーツクラブの検討	担当者名	金ヶ崎 春明

事業の目的・内容	当町の各スポーツ団体との連携を強化し、地域住民にも理解を求め、それぞれが有する課題等の共有、解決を図りながら、町のスポーツの方向性を検討する。			
事業の対象	町民全般			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	0 千円	千円	千円

事業の実績・成果等 (数値)	・平成28年度一年度末に地域総合型スポーツクラブに関する研修会を開催。 ・平成29年度一新たな試みとして、高齢者のスポーツに関するニーズを調査するため「カスタムメイド健康づくり事業」（県事業）を活用、11月から2月に全4回の健康体操講座を開催。 ・平成30年度一南部町、田子町の実施状況を視察研修。それぞれの運用方法を確認。 ・平成31年度一設立に向けての調査・検討			
-------------------	--	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☒ 達成できてない
自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い	
評価説明及び考察、課題	・ 成果が上がっているとは言えない状況であります。 ・ 設立に向けて引き続き調査、検討を継続していくこととする。		
事業の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	C	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		C	C	C	C	C	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・小さい頃からのスポーツ体験で、将来、スポーツするかが決まります。子どもの総合スポーツクラブがあれば良い。

評価委員意見(平成31年度)

・本当に必要か検討してほしい。 ・今後の調査・検討に期待します。 ・いつまで検討するのか。野辺地町のスポーツ環境に適さない事業であれば、無理して設立しなくてもよいと思う。 ・視察研修の報告が見えない。

事務事業評価シート

施 策 名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	水泳教室開催	担当者名	石田 晃

事業の目的・内容	幼児・児童を対象に、安全かつ楽しく水に慣れること及び泳力技術向上を目的に前期6回と後期6回の二期にわたる水泳教室を開催する。 講師はウィング青森より3名が派遣されている。 参加料 幼児1, 500円 児童2, 100円（児童は入館料600円含む） 募集定員人数 前期 幼児 26名 児童 40名 後期 幼児 26名 児童 40名			
事業の対象	幼児・児童			
事業費	年度	平成30年度決算	平成31年度決算	令和2年度予算
	金額	322 千円	413 千円	416 千円

事業の実績・成果等 (数値)	平成31年度実績（毎週木曜日実施）			
	前期 5/30～7/11 後期 9/5～10/10			
	申込人数	前期 幼児 25名 児童40名		
		後期 幼児 24名 児童40名	計 129名	

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	・講師を2名体制から3名体制へ変更するなど、これまで以上に泳力向上を図れる内容に変更した結果、泳力の高いグループは最終的にバタフライを習得するほど泳力が向上し、内容変更の成果が見られる。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 休止、廃止を検討する	☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・参加料を幼児1,000円、児童1,500円くらいにできないか。プールに適した人数はあると思うが、参加料が少々高い。
・体を動かす機会の減る冬にも実施してほしい。

評価委員意見(平成31年度)

・水泳人口は意外と多い。健康面にも非常に適したスポーツであるので、感染症対策をしっかりととりながら、継続してほしい。
・フルタイムで働く母親には参加しづらい時間帯。土・日にも実施して欲しい。
・今後も継続してほしいです。

事務事業評価シート

施 策 名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ少年団への支援と育成	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	子どもがスポーツ活動を行いやすい環境をつくり、スポーツを通して団体行動や仲間づくりに励む場を提供する。		
	令和元年度登録状況 団数 10団 登録者数 183名 指導者数 46名 (うち有資格者指導者数38名) ※平成29年度より団員の登録が3歳から可能となった。		
事業の対象	幼児～高校生、指導者		
事業費	年度	平成30年度決算	平成31年度決算
	金額	864千円	600千円

事業の実績・成果等(数値)	町スポーツ少年団の事務局として、団員の登録申請や各スポーツ少年団大会申込を行う。		
	また、各単位団に大会参加料や活動費に充ててもらうため、補助金を交付する。 ・団体割 …町スポ少へ登録している団体へ助成 ・団員割 … ” 人数によって助成 ・認定員講習会参加費…資格取得のための講習会に参加した方への助成		

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	・平成30年度より町民応援事業として各単位団への補助金額が増額となった。 ・少子化の影響等により単位団によっては登録団員が減少し、活動が難しくなっている状況にある。		
事業の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・手厚く支援していると思います。

評価委員意見(平成31年度)

・体育施設の開放と並行して、各スポーツに適した支援や育成を行ってほしい。

・活力ある青少年が更に増加してほしいです。

・子供が少なくなり、団体の存続もギリギリの中でも指導者は情熱をもって指導してくれているようで、頭が下がる。感謝しかない。

事務事業評価シート

施 策 名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町営球場開設記念兼「イオン」クラブ旗奪取中学校野球大会の支援	担当者名	石田 晃

事業の目的・内容	野辺地中学校をはじめ、近隣町村の中学校を招待し大会を開催する。野球競技を通じて、各校の交流を図るとともに、チームの団結力及び競技力向上を目指す。		
事業の対象	中学生		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	17 千円	17 千円

事業の実績・成果等 (数値)	日 時：平成31年4月28日（日）
	場 所：野辺地町営球場
	参加校：野辺地中、東北中、上北中、六ヶ所第一中、六ヶ所第二中、千歳中、泊中 7校4チーム
	優 勝・・・上北中
	準優勝・・・野辺地中
	第3位・・・東北中

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	・シーズン序盤のチーム力を図る大会として、各校の参加意欲の高さが見受けられるが、少子化により部員数の減少がみられ、チームを組めない学校があったため、混合チームでの参加を認めている。 ・今後、混合チームでの参加が見込まれ、チーム数が減少することが考えられるので、運営面について協力団体と協議が必要である。		
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・シーズン最初の大会であるため、チーム数の減少等はあると思うが、継続してほしい。
--

評価委員意見(平成31年度)

・各中学校の野球部員数も年ごとに減少し、チーム数確保に苦労している。やはり限界はあるので、一定チーム数を割ったら、事業は廃止しても仕方ないと思う。
・今後も継続してほしいです。

事務事業評価シート

施 策 名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県小学生スキー大会の開催	担当者名	石田 晃

事業の目的・内容	スキーを通じて児童の健全育成及びスキー技術や資質の向上を目標とし、スキーの町、野辺地町を全県的に広報しながら、実行委員会を中心に町をあげて応援、実施するものである。		
事業の対象	県内小学生 3～6 年		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	1,309 千円	1,277 千円
			令和 2 年度予算
			1,380 千円

事業の実績・成果等 (数値)	期 日：令和2年2月1日（土）、2日（日）
	場 所：国設野辺地まかど温泉スキー場
	競技種目：距離競技、大回転競技、リレー競技
	※大回転競技は雪不足のため中止
	参 加 校 38校 参加人数 107名
	11/27 第1回実行委員会
	1/21 第2回実行委員会
	1/28～31 雪搬入及びコース整備
	3/18 第3回実行委員会

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び 考察、課題	・平成27年度より距離競技3年生の部を設置し、参加者の減少が停滞しつつあったが、近年は15名前後の減少幅で推移している。 ・リレーチームを組めない状況にあるので、オープン参加による混合チームでの参加を認め、多くの子ども達が参加できる機会が与えられるようにしている。今後は大回転競技も3年生の部を設置(現在は別大会として実施)するなど、関係者と協議のうえ対策を行っていく。		
事業の 方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		A	C	A	A	A	A

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・まかどスキー場を持つ野辺地町としては、スキー大会は無くせない行事だと思う。 ・各小学校でスキー競技の選択にバラツキがあります。

評価委員意見(平成31年度)

・授業での時間が少なく、大会レベルではない児童もいたりする。 ・野辺地町の貴重な活動だと思います。 ・状況に合わせ、形を変えながらも良いので、継続して行ってほしい。スキー競技が年々減少している中で、スキー発祥の地としての意地をみせてほしい。
--

事務事業評価シート

施 策 名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県民駅伝競走選手強化支援	担当者名	石黒 努

事業の目的・内容	県主催の市町村対抗駅伝競走大会である。 各学校の陸上部、スキー部顧問、アスリートクラブ等で実行委員会を組織し、参加対象者の小学生、中学生、高校生、一般選手を育成して、町選手団として大会に臨む。		
事業の対象	小学生・中学生・高校生・一般		
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金 額	649 千円	741 千円
			令和 2 年度予算
			925 千円

事業の実績・成果等 (数値)	期日：令和元年9月1日（日）青森市		
	結果：総合の部 10位 町の部 4位		
	合同練習会 7/27. 8/3選手選考会 7/7. 7/14		
	現地試走会 8/10. 8/17. 8/21		
	5/29	第1回実行委員会	
	7/29	県へ選手名簿提出	
	8/20	市町村代表者会議	
	8/26	第2回実行委員会兼付添者会議	

事業の評価 (自己評価)	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	・今年度より小学生の区間が設定されたほか、コースも変更されたが選手候補者の募集や選手選考等において早めの行動により円滑に行えた。 ・補欠選手、監督推薦枠選手、及び新たに加わった小学生選手に対してのサポート体制が整いつつある。 ・成績は、次年度につながる成果であった。		
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・令和元年度から小学生の部も加わったので、春から強化練習等を行ってほしい。

評価委員意見(平成31年度)

・令和元年度から、小学生が走る区間も新設された。小・中・高が連携して取り組めるスポーツであるので、是非、一貫した指導体制で育成してほしい。 ・今後も継続してほしい。 ・今年は出場する選手の名前、顔写真が大会前に町民にお知らせされ、応援する気持ちが一層強くなった。

事務事業評価シート

施 策 名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町体育協会活動支援	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	当町のスポーツ振興の中核を担う体育協会を支援し、町民の体力・競技力を育てるとともに、スポーツにより町の活性化に資するものである。			
	令和元年度 加盟団体 21 登録者数 690名			
事業の対象	一般町民			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	1,200 千円	1,200 千円	1,000 千円

事業の実績・成果等（数値）	第43回上北郡総合体育大会参加支援 主会期：令和元年6月8日（土）、9日（日） 七戸町ほか 総合成績：7町村中6位 （参加競技：15競技中11競技） 優勝種目：バスケットボール（男）、柔道 第74回市町村対抗青森県民体育大会参加支援 主会期：令和元年7月27日（土）、28日（日） 中南地域 総合成績：30市町村中19位 （参加競技：17競技中7競技） 優勝種目（町村の部）：なし			
---------------	---	--	--	--

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	・各加盟団体では活発にスポーツ活動が行われている。 ・令和2年度から二カ年間、上北郡総合スポーツ大会を当町で開催することとなるため運営等の補助を行っていく。	
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

・予算額が大きいのので適正に支出するようお願いしたい。

評価委員意見（平成31年度）

・次年度、上北郡総合スポーツ大会は野辺地町が主会場になるので、計画的に進めてほしいです。

・大会に参加することに意義があるが、町の補助ももらっているので、ある程度の成績を残して欲しいと願う。

事務事業評価シート

施 策 名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	競技スポーツ強化支援事業	担当者名	石黒 努

事業の目的・内容	まち・ひと・しごと創生総合戦略掲載事業 東北大会、全国大会への出場が決定した町内小中学校、高等学校に在籍する個人、団体に対し、事前の強化合宿及び遠征に必要な経費を助成し、大会での上位入賞を支援するとともに、町の子どもの目標となる選手の育成及び競技力向上を目指し、活気ある町勢を実現する。 平成28年度より実施。			
事業の対象	町内小学校、中学校、高等学校に在籍する個人・団体			
事業費	年 度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算	令和 2 年度予算
	金 額	1,098 千円	1,219 千円	1,300 千円

事業の実績・成果等 (数値)	申請団体：野辺地中学校2件、野辺地高等学校5件 野辺地西高校1件 入賞者：（東北大会）個人0名、1団体 （全国大会）個人1名、1団体
-------------------	--

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☐ 十分寄与する	☒ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	
自己評価		B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題		・助成対象者へ経費支援を行うことで、大会での好成績を期待する。 ・課題として、この補助金を活用できるまでの選手育成事業（支援）等の検討や令和7年に青森県で開催が予定されている国民スポーツ大会の各競技に当町の選手（出身者含む）が出場し上位の成績を収めるための強化対策も急務と考える。	
事業の方向性		☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	A	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

- ・予算額が大きいのので適正に支出するようお願いしたい。
- ・個人競技の大会参加にはお金がかかるので、引き続き支援してほしい。

評価委員意見(平成31年度)

- ・東北大会・全国大会出場の際は、助成金があると非常に助かる。引き続き支援をお願いしたい。
- ・野辺地町の活発なスポーツの推進のための予算が適正に支出するように希望します。
- ・支援額はとても充実していて、感謝しかないが、支出内容を適正にしてこれからも継続してほしい。

事務事業評価シート

施 策 名	スポーツ情報の充実	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ史発行に向けて記録等の情報収集及び保存	担当者名	荒谷 成美

事業の目的・内容	スポーツの記録等の収集・保存要領（平成9年制定）のもと、各団体の情報収集を行う。 町制100周年記念スポーツ史 平成9年8月28日 発行 町制120周年記念スポーツ史 平成30年3月発行 150部		
事業の対象	学校、体育協会、スポーツ少年団		
事業費	年度	平成30年度決算	平成31年度決算
	金額	0千円	0千円

事業の実績・成果等（数値）	年2回（11月下旬、3月下旬）学校・体育協会・スポーツ少年団へ大会出場記録等の提供を依頼。 提供された記録等の内容を確認し、収集保存要領に基づき、今後の記念誌作成のための資料等を整理する。
---------------	---

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	☐ 十分必要である	☒ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	☐ 十分できている	☒ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
☐ 達成できている	☒ おおむね達成できている	☐ 達成できてない	

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	・年2回に分けて各スポーツ団体から記録等の情報提供を受け、提供された内容を精査している。 ・収集保存要領により精査するが、量が膨大であるため、保存の仕方や内容整理が重要。	
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見（参考：平成30年度の評価意見）

・時代に合った情報管理を。記念誌などよりも、その内容のデータ保存で十分だと思います。欲しい方にはDVDで。

評価委員意見（平成31年度）

・今後も継続してほしいです。

・膨大な量のデータを精査し、本にすることは大変だと思うのでありがたい。ただ、せっかく心を込めて作った本でもそのまま活用されることが少なく出番がないのが、本当にもったいない。

事務事業評価シート

施 策 名	社会体育施設・設備の整備・運営	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	体育施設の総合的な修理修繕と運営	担当者名	石田 晃

事業の目的・内容	住民が気軽にスポーツを楽しむことが出来るよう、使いやすく、快適性のある身近なスポーツ施設の整備促進に努め充実を図る。		
事業の対象	社会体育施設（スポーツ施設）		
事業費	年度	平成 30 年度決算	平成 31 年度決算
	金額	11,076 千円	7,129 千円
			令和 2 年度予算
			11,523 千円

事業の実績・成果等（数値）	各社会体育施設修繕 平成31年度		
	支出	町立体育館 修繕	270,304円
	支出	運動公園 修繕	510,403円
		屋内温水プール 修繕	937,300円
		体育センター 修繕	548,600円
		あったかハウス 修繕	87,560円
	①野辺地町立体育館 修繕：水銀灯修繕、刈払機修繕、消防用設備修繕ほか ②野辺地町運動公園 修繕：乗用芝刈機、タイル修繕、ガラス修繕、投光器不点灯修繕、刈払機修理ほか 備品：グラウンドレーキ9本 ③屋内温水プール 修繕：ろ過設備バルブ交換、給湯循環ポンプ部品交換、トレーニングルーム天井裏換気設備ほか 備品：トレーニング機器3種、プールカバー6枚、プールカバー巻取器1台、巻取器ローラー5台 ④体育センター 修繕：非常放送設備更新、消防用設備不良箇所修繕、コンセント交換ほか 備品：卓球台2台、卓球用ネットセット2セット、防球フェンス5台、ミニカラーカウンター2個 ⑤あったかハウス 修繕：圧雪車点検整備		

事業の評価（自己評価）	必要性(町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。)		
	☒ 十分必要である	☐ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。)		
	☒ 十分寄与する	☐ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)		
	☒ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか。)		
	☒ 達成できている	☐ おおむね達成できている	☐ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	成果：予算の範囲内で工事・修繕・備品購入等が予定通り実施できた。 課題：体育施設において修繕等を計画的に実施しているが、老朽化ですべての施設において突発的な修繕が発生している。		
事業の方向性	☒ さらに重点化する ☐ 見直しのうえ継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	中濱委員	上野委員	前田委員	江刺家委員	村木委員	H30参考
		B	B	A	B	A	B

評価委員意見(参考:平成30年度の評価意見)

・備品や修繕に関しては、前年度だけでなく、数年間の台帳を見ての購入判断が大事である。
--

評価委員意見(平成31年度)

・備品購入に関しては、慎重な査定をお願いしたい。
・多額な予算なので、今後も計画的に進めてほしいです。
・年々建物の老朽化で修繕費が増えるのは目に見えているので、先行きがどうなるのか危機感が募る。ただし、事業としては限られた予算で適正に修繕していただき、ありがたい。